171　^{99m}Tc-HMDPが集積した甲状腺髄様癌の１例

吉川啓一，片桐誠，清野徳彦，太田喜久子，大塚信昭*
福永仁夫*，原田種一　（川崎医大　内分泌外科，*同核医学）

^{99m}Tc-HMDPの集積がみられた甲状腺髄様癌の１例を経験したので報告する．症例は36歳女性で，MEN type Ⅱa の家系の一員である．甲状腺右葉に３×２cmの腫瘤が触知され，超音波検査では微小石灰化を伴う腫瘤像が認められた．血中カルシトニンとCEA 濃度はともに高値を示し，組織学的にも甲状腺髄様癌と診断された．術前のシンチグラムでは，^{201}-Tl Cl は腫瘤に集積したが，^{99m}Tc-O_4^- は集積を認めなかった．^{99m}Tc-HMDPによる骨シンチグラムでは，骨転移を疑う異常集積は認められず，腫瘤に一致した異常集積が認められた．組織学的には腫瘍内に著明な石灰化が認められ，^{99m}Tc-HMDPの集積には，これらの石灰化が関与していることが示唆された．

172　慢性甲状腺炎における^{67}Ga citrateを用いたシンチグラムの検討－悪性リンパ腫との鑑別について－

片桐誠，太田喜久子，清野徳彦，吉川啓一，大塚信昭*，福永仁夫*，原田種一　（川崎医大　内分泌外科，*核医学）

甲状腺原発の悪性リンパ腫は慢性甲状腺炎が発生母地とされており，両者の鑑別が重要である．われわれは，甲状腺腫の急速な増大を訴えた慢性甲状腺炎の患者に対して，^{67}Ga citrate(^{67}Ga)を用いた頸部シンチグラフィを行い，悪性リンパ腫との鑑別を行っている．今回，穿刺吸引細胞診あるいは生検で慢性甲状腺炎の確定診断が得られた症例について，^{67}Gaを用いたシンチグラムを検討し，悪性リンパ腫の症例と比較検討した．　悪性リンパ腫では全例に^{67}Gaの著明な異常集積が認められたが，慢性甲状腺炎では異常集積がみられる症例もあるものの，その程度は低く，^{67}Gaは鑑別診断として有用であった．

173　甲状腺悪性リンパ腫のＭＲＩ

中原　浩、野口志郎、村上信夫、原尾基継　（野口病院）
大西　隆、星　博昭、陣之内正史、長町茂樹、
二見　繁美、渡辺克司　（宮医大　放）

甲状腺原発悪性リンパ腫は、全甲状腺悪性腫瘍の約４％と希な疾患である。今回我々は甲状腺悪性リンパ腫を１３例経験したのでそのＭＲ像の特徴を報告する。通常甲状腺悪性リンパ腫はＴ１強調像で等信号、Ｔ２強調像で高信号を呈すると報告されており１３例中１１例はＴ２強調像で高信号を呈していた。しかし、１例は非腫瘍部と等信号を呈し、１例は甲状腺が瀰慢性に均一な信号を呈しており、慢性甲状腺炎との鑑別が困難であった。ＭＲＩは特にＴ２強調像で慢性甲状腺炎と悪性リンパ腫との鑑別に有用と考えられたが、鑑別困難な症例も認められた。

174　I-131シンチグラフィーにて異常集積を示した甲状腺癌と肺癌の二重癌の一例

宮本信一、御前　隆、竹内　亮、笠木　寛治、小西　淳二（京大、核）

甲状腺癌と肺癌の二重癌でI-131が肺癌にも集積した１例を経験した。症例は７１才男性で左頸部腫瘤と嚥下困難を主訴に本院耳鼻科に入院となった。甲状腺乳頭腺癌の食道浸潤の診断のもと、１９８８.５月甲状腺全摘出と左頸部郭清術、続いて二回のI-131治療を行なった。その後経過観察されていたが、１９９０.８月労作時呼吸困難が出現した。二回目のI-131治療後のシンチグラムでは左肺野に集積が認められたが、気管支鏡下生検を行なった所肺原発の扁平上皮癌であった。現在外照射と全身化学療法を継続中である。甲状腺癌以外への癌へのI-131の集積は稀である。肺癌に関しては３例の報告があるが、いずれも腺癌である。扁平上皮癌ではまだ報告はない。

175　甲状腺腫瘍における^{201}Tlの集積と腫瘍増殖能の指標との比較検討．

中駄邦博、加藤千恵次、鐘ヶ江香久子、永尾一彦、伊藤和夫、古舘正従（北大　核）

核DNA量とproliferating cell nuclear antigen(PCNA)は腫瘍の増殖性の指標として注目されているが、甲状腺疾患27例(乳頭癌13例、悪性リンパ腫2例、腺腫様甲状腺腫5例、濾胞腺腫及び慢性甲状腺炎各4例)で flow cytometryによりこれらの指標を検討し、^{201}Tlスキャンにおける^{201}Tlの集積と比較した。PCNAの陽性率と^{201}Tlスキャンのlesion/background ratio(LBR)の間には相関性を認め(early scan:r=0.67、delayed scan:r=0.72)、また、PCNA陽性率が20%以上か DNA aneuploidyである群(n=12)のLBRはそうでない群(n=15)に比べて有意に高値を示した($p<0.05$)。^{201}Tlの集積は腫瘍のvascularityだけでなく、増殖能とも関連のある事が示唆された。

176　^{201}Tlシンチグラフィによる結節性甲状腺腫の診断能の再検討

川崎幸子、松野慎介、余田みどり、田邊正忠　（香川医大放）　宮内　昭　（同２外）

^{201}Tlシンチグラフィ（タリウムシンチ）により甲状腺腫瘤の鑑別が可能かを再検討した。手術により確認された乳頭腺癌(PC)32病変、濾胞腺癌(FC)４病変、悪性リンパ腫２病変、濾胞腺腫(FA)15病変、腺腫様甲状腺腫(AG)９病変を対象としタリウムシンチで初期像の集積の有無をE(+)、E(-)、遅延像でwash outの遅いものD(+)とした。E(+)D(+)を呈したのはPCの72%、FC100%で悪性腫瘤29/38(76%)、良性腫瘤8/24(33%)であった。悪性腫瘤の診断基準をE(+)D(+)とするとそのsensitivity 76%、specificity 67%、accuracy 72%であった。腫瘤の大きさや局在部位では大きいものほど、また下極に存在するものほどE(+)D(+)を示す傾向がみられた。

Presented by Medical*Online